

## 令和6年度第1回備前市振興計画審議会 議事概要

開催日時：令和6年12月25日（水）13:00～15:20

出席者：岡山大学 三村 聡

備前東商工会 中本 孝一郎

岡山県備前県民局地域政策部地域づくり推進課 宗田 勝志

関西福祉大学看護学部看護学科 中村 有美子

備前日生信用金庫総合企画部 中川 正典

備前市社会福祉協議会 山形 明

備前市労働組合協議会 三木 隆司

RSK山陽放送株式会社営業局 中藤 歳浩

備前市自治会連絡協議会 金本 伸一

NPO法人備前プレーパークの会 北口 ひろみ

市民公募 松熊 健二

市民公募 松崎 彩

市民公募 三木 惇郎

### 議事概要

- (1) 委嘱状交付
- (2) 副市長挨拶
- (3) 委員紹介（自己紹介）
- (4) 会長及び副会長の選出
- (5) 第3次備前市総合計画 後期基本計画及び第3期総合戦略について（事務局説明）
- (6) 委員からの主な意見等  
（委員）

人口推移は国内ではゼロサムなので、奪い合いではないが日本全体の人口が減少しているなかでどのように取組みを進めていくのか考える必要がある。

少子化に続き、生産年齢人口も減少するなかで、市民が本当に備前市に住んで幸せだと思えるまちづくりが大切である。

目標を立てるのであれば何とか踏ん張って人口減少の度合いを減らすこと。子どもがいないまちになってくことも問題意識として共有し、このような会議で市民の声を聞くことを国からも求められており、良いものは継続する、課題は改善していくためのものをこの審議会で示していくとの方向感を持って進め、市長へ答申することが役割である。

（委 員）

商工業・海運業の振興について、企業がないと雇用の場もないので積極的な企業誘致を進めてほしい。

日生はＪＲ駅前に海があるが、その立地条件が活かしていない。観光面での開発も進めてもらいたい。

（委 員）

駅についてはバスを含めた公共交通機関と連結も検討課題である。

（委 員）

ウェルビーイング指標は大変興味深く説明を聞かせていただいた。住民意識のアンケート調査はいつの時点か（事務局から適宜回答）。

（委 員）

津山市の総合計画見直しでもウェルビーイング調査を行っているが、若い女性の働き場所、雇用の検討課題が出ている。

デジタル田園都市国家に指定されている吉備中央町では、医療・福祉の客観指標が低いので、岡山大学がこの指標を向上させるために支援している。

（委 員）

若者や女性に選ばれるまちを重要課題として挙げられているが、少子化が進展する中で、県内でも年少人口が増加している、出生数が増加している成功事例について、本市と比較することで必要な取組が見えてくることもあるのではないか。

例えば、子どもへの支援策について、備前市は経済的支援が充実していることは理解できるが、経済的なこと以外に子どもをたくさん産もうと思えるようなまちはどんなまちかということを感じる。

子どもがどうしたら残ってくれるのか。子どもの人生というところもあるが、ぜひ成功事例を知りたい。

（委 員）

出生率を向上させても子どもたちが地域から外へ出ていく状況にあることは、社会増減の視点から一つの課題ではあるが、国内でも出生率を向上させている事例があるので、この会議でも取り上げてもらいたい。

（委 員）

信用金庫では新しい中期計画を準備しており、日生地区の海運業に対して高齢化が進展する中で金融機関としてどのようにサポートできるのかを考えていることから、海運業の振興について非常に関心を持っている。

自宅は吉永駅の近くであり子どもを見かけるが、全然いない地区は全然いないということで、私が小さい頃と比べて非常に変わったなと実感している。

（委 員）

貴信用金庫の経営の方向性についてもご説明いただき、金融機関としての立場から市政と連携、方向性を一にするところを総合計画の中で考えていくこともあり得るのではないかな。

（委 員）

最近の傾向として、子ども、若者は頻繁に使われるが、高齢者福祉は大丈夫かと思う。3つの高齢者施設の理事であるが、コロナ禍で国の援助がなければ廃業の可能性があった。

どの施設も人手不足と金不足であり、自分の施設は基金を取り崩して運営している。人手は集まらない。訪問介護している人と介護される人は、いつ変わってもおかしくない話を聞いている。担当している事業を含めて、高齢者・障害者の福祉について意見を言いたいと思う。

（委 員）

社会福祉協議会の役割は今後更に重要になると考えるので、その取組を総合計画にどのように具体化するのかも検討を進めたい。

（委 員）

働く者として、持続可能な雇用の創出・安定があって初めて住宅施策の促進、そして移住転入が増え、並行しながら子どもたちに質の高い教育を提供できるのではないかと考える。

既存企業への支援充実について、特に思うところであるが、備前市で住んでいる人が企業に就職してもらうために、備前市と企業がタイアップして、例えば備前市で住んでいる人を優先的に企業に雇い入れをした場合、企業側に何かメリット、税金が少し安くなる、何かの補助あればと考える。

働くために備前市に転入してきた場合、住宅等への補助が充実する等の備前市で働く企業と考えていただければ人口の転出も少し抑えられ、転入も促進されると考える。

（委 員）

玉野市が高校商業科で三井造船と連携しながら、造船所の方が授業を行い、地元高校生の就職につなげていく取組がある。

地域経済分析システムのRESASでは、備前市は耐火レンガ等の製造業が突出しており、この強みをどのように活かしていくのか。

雇用は地域採用も含めて地域で循環する仕組みをどのように構築していくのが大事だと思う。

（委員）

主観指標と客観指標の重ね合わせで備前市と吉備中央町を対比している理由は何か（事務局から説明）。

吉備中央町の人には自分の住んでいるところに、誇りを持っている、自慢したいと思うのではないかと。備前市が取り組んでいることを住民は気づいていない、知らないのではと気になった。吉備中央町は住民へのアピール、伝え方が上手いのかと感じる。

備前市は客観指標が高いのに主観指標が低いことをどのように捉えるのか。広報について連携できることがあれば取り組みたい。

（委員）

市民に対する広報のやり方、何でもいいからSNSということではなく、若者の意見を取り入れながら、使い方、利用の仕方を工夫している自治体がある。

合併後20年が経過したが、備前市に限らず旧市町村のエッジが効きすぎている中で市全体として方向性としてどうなっているのかという思いがある。

（委員）

子育てが重要と感じている。地域では移住者が増えており、保護者もスタッフも備前のゆたかさ、素晴らしさを感じて選んでくれたのではないかと。

県外から30代の女性がプレパークへ視察に来られた意欲ある方をスカウトしたいと考えたが、子育て支援予算が削減されており、優秀な人材を引っ張りたくても受け入れる財源がないというところは、地域おこし協力隊のフリーミッションなどで強みがある人材を引っ張ってくるような取組があってもいいのではないかと。

住むところ、家を建てる場合、市外の土地を選ぶ。子供が1人2人と増えていく中で少し広めの住居について和気町はゆとりのある賃貸があり、移住者、若者もこの町に住むという選択肢が広いのではないかと。

備前市では子どもが増えている地区はあるが、紹介できる物件がないこともある。備前に移住して出たなくても出ていかざるを得ないという声もある。

子育てもWellbeingが大切だと考える。親子だけではなく、地域、企業を含めてみんなで子育てしていこうという動きに貢献したい。

備前市では0歳から無償化で保育園に入る家庭が多数あるが、仕事と子育ての両立する中で心のゆとりが持てていないのではないかと。この数値に表れているのではないかと。

サービスを受けることは楽ではあるが、それで幸せを感じることができるか。子どもも大人も自分が持っている力を発揮して、輝けるまち、自分がこのまちにいる存在価値を感じられる備前市になれるように活動している。

(委 員)

子育ては少子化対策の一丁目一番地である。奈義町は市民も相当取り組んでおり、ネットワークを構築し、フォローしながら、自助共助は上手く機能していると感じる。

増加している空き家をどのように活用するのか、リフォーム等の課題はあるが流動化させている県内自治体もあるので参考にしながら、可能であれば民間主導も含めた仕組みをつくることも議論したい。

(委 員)

移住してきて、他の人に備前市の良いところを聞くと、特にないと反応が返ってくる。住んでみて良いことに気付くが、良い所が開口一番に出てこないのがもったいないと感じる。

Wellbeingの主観と客観の差が大きいことについて、一つ考え方としていろいろなファクターが先ほどの表にもあったが、このファクター以外のところでも実は何か隠れているのではないか。という考え方も大事と思う。

地域で活動する上で、自分の公務員としての経験を踏まえると、災害時は住民の力があってこそと思う機会が数多くあった。自治会は若い世代が少ないので入ってほしいと思う反面、岡山市内等に通勤があり、子育てもあると地域活動に時間を費やせないのが実情だと思う。地域を良くするため、防災も含めて地域の活動にどのように関心を持ってもらうかというのは、自分が自治会スタッフを担当している上でも今後取り組んでいく必要があると考えている。

社会の縮小への対応をどのように取り組むべきなのか。新しく7つ目の政策を起こして「将来の備前市のあり方」ということを考え、トライアンドエラーを繰り返していく必要があると感じています。新しい政策を大きく打ち出すことで市民が関心を持つ機会を得る、次の時代に向けて備前市が変わっていく広報にも繋がると思う。

行政と市民の関わり方の一つとして、市民がアクションの一部の責任を負うという形で施策のプロジェクトに参画できる形もあるのではないかと。ボランティア(無償)ではなく手当をつけて、所属の会社に保証をつけつつ、市民と行政でプロジェクトチームをつくって新しい意見も取り入れながらトライしてみることも主体的に住民が関われるような機会ができると思う。

(委 員)

防災の視点も必要である。例えば、要支援者への対応について、市、社会福祉協議会、地域医療包括で全体としてどのように役割分担するのか。

7つ目の政策についてですが、分類を分けるのか、整理について事務局で検討してもらいたい。

大きな審議会では意見等を発言したことで終わりのケースが多々ある。ワークショップも然り。それでは全く実装できないので市民参加型が機能するように運営することが課題であると思う。

事務局

事務局としては、いただいた意見は、受けっぱなしではなく委員の方とキャッチボールをしたいと考えている。できること、できないこと、ヒト・モノ・カネ・時間の面から検討すべきことはあるが、庁内や関係者とも共有して検討を進めたい。

(委 員)

配偶者は市内勤務だが周りは他市へ働きに出ている方も多く、地域の中で働く場所が増えればよいと感じる。

プレパークがあるので子育て環境で惹かれて備前市に移住してくる方は多い。どのような理由で備前市に移住してくるのかというのも策定に際して意識すべきところ。

若者や女性に選ばれるまちをつくるという方向性において、今後のワークショップで子どもや女性の参加が重要と思う。アンケートではなく、会話でしか得られない意見があると思う。人口減少と少子高齢化等それぞれ課題はあるが、連なっているところ、重ねているところもあれば、それぞれ一つの軸として考えなければならないこともある。

若者や女性に選ばれるところに市民、高齢者の方からも本当に選ばれている、選んでいるという実感が沸くようなまちになったらいいと思う。

地域の思いを出向いて聞くという機会があってもいいと思う。

子育てでは、備前市内には産婦人科がないので不安な思いをして妊娠期間を過ごすという実態がある。長い目で見たときに産婦人科があること、総合的医療を受診できること、その繋がりがあれば生まれた後もこのまちに住みたいことに繋がるのではないか。

(委 員)

データについてはクロス集計により相関関係を捉えることもできる。

(委 員)

移住してきたが、子育て支援が充実していることに感銘を受けた。これから子どもが大人になっていくビジョンを考えたとき、高校・大学で他県都道府県に行って、再び帰ってくるかっていうと自分の中でもわからない。また戻ってきたいかと子どもに伝えたときに帰ってきたいという返答はまだ見えない。

LINEで届いたアンケートに回答したが、困っていないところでも満足度が高くなる感じがあって、例えば病院にかからないから困っていないというところだから満足度が高くなる。逆に関心がある分野は足りないことに気づくので満足度が下がることもあるのでないか。一概に主観指標かどこまで反映されているのかはが難しいところ。データの場合は現状認識が大事と思う。主観指標と客観指標はかなりズレがあるとして、主観が小さくても主観が大きくても何かズレがあれば修正が難しい、指標が近ければ、客観を上げていくと大きくすることができるかと思う。吉備中央町には逆に主観が上がっているからこそその難しさがあるのではないか。主観と客観の近い自治体はどこか、主観と客観が近い地域の特徴などがわかれば、客観を上げていくことで主観も上がっていくというような形になると感じた。

(委 員)

備前市にそのまま適用できるかは別として、内閣府から事例集が発出されると思うので参考にすることは重要である。

(委 員)

環境汚染問題が起きた時代から、地域と企業が環境保全委員会という協定を結んで毎年1回、地域役員と企業経営者が安全環境の取組などの意見交換を行ってきた中で、私が発言しているのは、企業は儲けて大きくなっていただきたい、地域は支援する。優良企業に成長していただければ、地域外からも働きにくる人が増えるとの観点から。

備前市も10数年前から昼間人口は多いが、その昼間人口を定住させる施策ができていない。これが人口減の1つの要因になっていると感じている。ある資源をいかにプラスにとして、人を繋げていくことも大事である。

20歳から39歳までの女性が減少すれば、人口減少が進展するので、当事者の求めているものを捉えて行政に活かすことがないと、当事者意識とマッチングしないのではないか。

地域格差、1人1人の人間の価値観、感受性があるので、グラフで示したものが計画であるかといえばそうでもない。現場へ出て、この政策がどこまで浸透して、どのように市民が興味を持っているのかという現場主義として取り組むこと。問題点をあげ、新しく取り組み、そして評価していく。自ら計画したものがどのように定着し、受け入れられているかを探っていくことが大事であると思う。

(委 員)

全体をまとめていただいた。

今日の審議会は備前市まちづくり条例に基づき原則公開ということですがよろしいでしょうか（出席者同意）。

事務局

次回の開催は3月頃を予定しており、改めて日程調整させていただく。

(委 員)

本日の会議を閉会とする。

(以 上)